

『歴史総合，世界史探究』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度の共通テストは、新課程の学習指導要領の下で学習した高校生が受験した最初の試験となった。歴史科目は、「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の2科目・1出題範囲が用意された。そのうち、『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第2問と『歴史総合，世界史探究』の第1問とが共通であった。よって、『歴史総合，世界史探究』においては、主に第2問以降について意見・評価を行うこととする。第1問については、『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の項目を参照いただきたい。

以下、『歴史総合，世界史探究』の概況を示す。()内は、昨年度の『世界史B』の数値である。

- ・受験者数：69,273名(75,866名)
- ・科目選択率：14.6%(21.7%)
- ・平均点：66.12点(60.28点)

なお、評価に当たっては、21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

(1) 評価の観点

年度・出題数 設問形式	令和7年度	
	出題数	(出題率)
主に知識・技能を評価するもの	12	(50.0 %)
主に思考・判断を評価するもの	12	(50.0 %)
合 計	24	(100.0 %)
(うち概念的理解)	7	(29.2 %)

(2) 分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	令和7年度	
	出題数	(出題率)
政治史	6	(25.0 %)
社会経済史	11	(45.8 %)
文化史	4	(16.7 %)
複数分野に関わる	3	(12.5 %)
合 計	24	(100.0 %)

*知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は、当外部評価分科会の判断による。

(3) 時代別の出題数・出題率

年度・出題数 時代	令和7年度	
	出題数	(出題率)
古代史	5	(20.8 %)
中世史	4	(16.7 %)
近世史	4	(16.7 %)
近代史	6	(25.0 %)
現代史	2	(8.3 %)
[うち戦後史]	1	(4.2 %)
複数時代混合	3	(12.5 %)
合 計	24	(100.0 %)

(4) 地域別の出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和7年度	
	出題数	(出題率)
西欧・北米	9	(37.5 %)
東欧・ロシア	1	(4.2 %)
東・内陸アジア	4	(16.7 %)
南・東南アジア	3	(12.5 %)
西アジア・アフリカ	2	(8.3 %)
中南米・オセアニア	0	(0.0 %)
複数地域に関わる	5	(20.8 %)
合 計	24	(100.0 %)

中世(5c~14c)・近世(15c~17c)・近代(18c~19c)・現代(20c~)を判断の目安とする。

(1)~(4)については、「世界史探究」該当部分(第2問~第5問)のみ。

第1問については、「歴史総合」部分を参照のこと。

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問 世界史上の都市の歴史をテーマにした探究活動について

問1 文章中の空欄に入る二つの語句の組合せとして正しいものを選択する問題。資料や会話文の情報から都市カイロを読み取る技能と、14世紀半ばの疫病に関する知識を問う問題。

問2 問1で答えた都市カイロを、資料に記された時期に支配していた王朝について述べた文として、最も適当なものを選択する問題。マムルーク朝についての包括的理解を問う問題。選択肢が全て北アフリカに成立したイスラームの王朝に関する正命題で構成されている良問。

問3 準備メモ中の空欄に入る都市に関する出来事とその背景について、最も適当なものを選択する問題。準備メモの情報から都市サンクトペテルブルクについての知識・技能を問う問題。選択肢の文章がよく考えられている。

問4 世界史における時代ごとの文化的特色について述べた文として、誤っているものを問う問題。知識・技能を問う問題。年代に関する正誤判定になってしまったのがやや惜しまれる。時代ごとの文化的特色をふまえた選択肢にして年代並び替え問題に昇華してもよかった。

問5 会話文中の空欄に入る文について、最も適当なものを選択する問題。ラタナコーシン朝の成立時期に関して、都市に防衛機能が備わっているのは、当時の人々にどのような記憶が残っていたためなのかを、根拠を基に推論する思考力・判断力・表現力等を問う問題。選択肢が全てインドシナ近代史に関する正命題になっている点も評価できる。

問6 20世紀初頭のバンコクの状況について述べた二つの文の正誤の組合せとして正しいものを選択する問題。外国領事館や運河の存在が何を意味するのかという概念的理解を基に、2枚の図と会話文から情報を読み取る技能を問う良問。

問7 複数の都市を考察したメモの正誤について述べた文として最も適当なものを選択する問題。他の中間と連動しており、大問全体の構成がよく考えられている。各都市に関する知識や情報を基に、都市に関する概念的理解に至る思考力・判断力・表現力等を問う良問。中原さんのメモが、歴史用語を使わずに表現されている点が評価できる。

第3問 世界史を探究するに当たり、資料の持つ文脈や背景を理解する必要性について

問1 文章中の空欄に入る人物と、資料から読み取れる見方について、最も適当なものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。アクティウムの海戦に関する記録について、「勝利した側からの見方」を問う意欲的な問題であった。作問の工夫で、資料の持つ文脈や背景を考察する問題になったのではないか。

問2 女性が政治に関わることについて述べた二つの文の正誤の組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問3 文章中の空欄に入る人物と、五経正義が編纂された理由について、最も適当なものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問4 二つの研究例に関して、それが研究として可能かどうかについて、最も適当なものを選択する問題。資料内の「註」や「疏」の意味を理解した上で、研究のプロセスを推察する思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問5 文章中の空欄に入る人物が訪れた時代のインドの状況について、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問6 文章中の空欄に入る語句と、カニンガムと同じ手法で資料を用いたと考えられる研究について最も適当なものの組合せを選択する問題。研究手法についての概念的理解を基に、類型化して考察する思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問7 資料から読み取れる事柄と、資料が書かれた時期の政治的背景について、最も適当なものの組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。資料4から読み取った情報を考察することで、20世紀前半の中国をナショナリズムの高揚という概念で捉え、ナショナリズムと時代性の関係性から正答に至る。選択肢**イ**と**Z**の関連性が優れている。正答率が20%と

低かったのは、資料が書かれた時期が、スタインが始めてやってきた時期の30年後であることを読み取れなかった受験生が多かったことが推測される。

第4問 大陸を超えた諸地域の結び付きについて

問1 会話文中の空欄に入る文と、その背景について最も適当なものの組合せを選択する問題。

イギリスの地域別綿花輸入量のグラフについての知識・技能を問う問題。

問2 二つのメモの正誤について述べた文として最も適当なものを選択する問題。数値の変動に関してだけでなく、その背景についての考察を促す思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問3 メモ中の空欄に入る二つの文の組合せとして正しいものを選択する問題。知識・技能を問う良問。ヴァイキングの活動に関する知識や、メモから読み取った情報を基にヴァイキングの進路を地図上から正確に読み取る技能を求める。

問4 会話文中の空欄に入る文について、最も適当なものを選択する問題。北米の遺跡が先住民の住居跡ではないことの根拠を考察する、思考力・判断力・表現力等を問う良問。

問5 ヨーロッパ人の海外進出に関する事柄を、古いものから年代順に正しく配列したものを選択する問題。ヨーロッパ人の海外進出についての、知識・技能を問う問題。

第5問 世界史探究で行われた、ある主題についての班別学習について

問1 メモ中の空欄に入る三つの語句の組合せとして正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。木簡の出土地から使用された国家を読み取る技能や、メモの内容と、7～8世紀の東アジア史に関する包括的知識を関連させて、考察のプロセスを問う。

問2 パネルについて述べた文として最も適当なものを選択する問題。16世紀のイングランドについて、資料から読み取った情報を基に、時代や地域の特徴を考察する思考力・判断力・表現力等を問う問題。

問3 パネル中の空欄に入る二つの語句の組合せとして正しいものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。アメリカ合衆国の先住民政策に関する包括的理解を基に、パネルから読み取れる情報を基に先住民の食文化を考察し、「伝統」という素朴概念に対する問い直しを迫る点が評価できる。

問4 表とメモに関して述べた文について、正しいものの組合せを選択する問題。知識・技能を問う問題。第一次世界大戦中のドイツ社会と、「総力戦」についての概念的理解とともに、表及びメモの丁寧な読み取りを求める。

問5 班別学習の主題と、その主題を更に追究するための事例について、最も適当なものの組合せを選択する問題。小問1～4で扱われた4班の活動内容から班別学習の主題を推察し、更に政治権力と食料事情についての概念的理解の基に、主題を追究するための事例を考察する思考力・判断力・表現力等を問う良問。

3 分量・程度

5つの大問で計32問であり、分量は試験時間に見合った適切なものである。これまでの世界史Bに比べ問題数が減少し、受験生は資料を丁寧に読み取る時間が確保できたと思われる。大学入学希望者の学力を測定するものとしては、適切な難易度であった。歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、概念的に理解しているかを問う問題が様々に工夫された上で出題されていた。知識・技能を問う問題と、思考力・判断力・表現力等を問う問題は5割ずつの出題でバランスがとれていた。

知識・技能を問う問題としては、**14** **25**を良問として挙げたい。**14**は地図上から方角や凡例を丁寧に読み取る技能を基に、外国領事館や運河が存在することは何を意味するのかなどそれぞれの概念的理解を問う問題。**25**はメモに基づいてヴァイキングの進路を地図上でたどって正

解に導く問題。地図上のある地点を指してその地名を問う地図問題ではなく、地図問題として求める技能の質が変わったことがうかがえる。

思考力・判断力・表現力等を問う問題には良問が多く、特に、**15** **21** **22** **30** **32**は概念的理解を伴う問題でもあった。**15**は都市の特徴を概念化して、「対外貿易」や「西欧との結び付き」などに結び付ける思考力を問う問題。**19**はある資料を利用した場合、可能な研究とはどれか、という研究のプロセスを追体験することで資料活用の本来的な意味を問う問題。**21**は歴史学研究について、内容ではなく研究手法を概念化した上で二つに類型化し比較する問題で、研究において資料とは何か、資料を分類する視点にはどのようなものがあるかについての考察を促す世界史探究らしい設問であった。**22**は、スタインが「8か国連合軍が都を占領した時」に初めて（中国を）訪れてから「今日までの30年にわたる調査」に関する公文書が書かれた時期の政治的背景を考察する問題であるが、北伐をナショナリズムという文脈で捉える視点が必要であり、歴史を多面的・多角的に理解する力を問う良問であった。**24**はグラフの読み取り問題であるが、単に数値計算の正誤ではなく、数値変動の背景を問う良問に昇華していた。**28**は朝鮮半島で出土した木簡を基に、古代の東アジア全体を俯瞰した問題。考察の結果は「比較できない」となっていることも特筆したい。実際の歴史学研究では、一部の資料からだけでは「断定できない、比較できない」ことの方が多い。歴史学研究の一端を受験生に触れさせる意図もあったのではないかと**30**は北米先住民の伝統料理と紹介されている料理をテーマに、「伝統」とは何かを考察し、「伝統」に関する新たな概念理解を求めた。さらに、歴史総合において主題を設定する観点の一つである「統合・分化」にも連関する問題となっていた。**32**は班別学習の主題と、更に追究する事例を選択する問題であるが、事例を選択するためには4班の学習内容についての概念的理解も求められる。『歴史総合、世界史探究』初年度の締めくくりの問題としてふさわしい、「地球世界の課題の探究」という学習指導要領にも則っている意欲的な作問だと評価したい。

4 表現・形式

素材（資料）については、地図や漢籍の一部そのまま、グラフ、表など多岐にわたっていて、よく工夫されている。

場面設定については、第2問、第4問が生徒の話し合い、第5問も生徒の班別学習となっており、世界史探究の授業を強く意識していると思われる。それぞれの会話文も不自然なものではなく、問題を解く上で必要な情報が含まれているので、以前散見された「解答に関係のない会話文」ではなかった。また生徒名に「ムサさん」「ローイさん」などが登場し、多様なルーツを持つ受験者層を反映していることは好ましい。

問題構成についてよく工夫されているものとして、次の2点を特に挙げたい。

第3問中間C 近代以降の歴史学調査や文化財保護をテーマにしている。最初の資料は英領インドでイギリス人カニンガムが歴史学調査の必要性を訴えるという、帝国主義的立場からの資料であり、二つ目の資料は中国政府の公文書で、外国人が文化財を国外に持ち出すことを危惧し、自国で保護する必要を訴えている。20世紀前半の中国で国民革命が進み、ナショナリズムが高揚している状況が背景にある。二つの資料を比較する設問はなかったが、中間全体でみると、対照的な資料が提示されていてメッセージ性を感じる。

第5問 世界史探究の授業における班別学習の設定で、四つの小問がそれぞれ、生徒たちが調べたメモやパネルになっている。小問全てが資料の読み取りを前提としているが、資料を読み取る視点や問うている技能が異なっており、日々の世界史探究の授業で資料の読み取りを行う際の良きモデルともなっている。特に問3のパネルにおける課題設定の視点が優れている。4班の活動内容を

基に，この授業の主題は何かを最後の問5で問う，という構成で，大問全体が一つの授業となっている。

5 ま と め（総括的な評価）

『歴史総合，世界史探究』初年度の共通テストということもあり，多方面から大いに関心が寄せられていたと思われるが，全体としてはよく工夫された，今後の世界史探究の試験問題の指針となる問題であった。資料の読み解きに際しては，受験者が持っているであろう知識と照らし合わせて資料を読み，読み取った情報と総合して考察することで，知識に新たな見方が付与されるような構造になっている。これは，国語における読解と異なる世界史探究（歴史教育）固有の読解と言えるのではないだろうか。特に現代史は細かい年代正誤を問う問題にすることは容易であるが，そのような問題に陥らず，世界史探究で問いたい力は時代の特徴を大きくつかむ概念的理解であるという作問者のメッセージが伝わってくる問題が目立った。

近年の歴史教育改革は，今回の共通テストで一定の完成形が整ったと思われる。時代や地域の特徴を概念的理解で捉えるという学習指導要領の方向性は今後も後退することはないであろう。高等学校の教員としては，今回の世界史探究の共通テスト問題は，日々の授業改善の大きな指針となった。

大学入学希望者の学力を測る上でも，高等学校で身に付けることを目指す力を示す上でも，大変優れた問題作成には，多大な御苦勞を要したであろう。御尽力いただいた委員の皆様から感謝申し上げたい。